

アートプロデュース学科 履修モデル

2019年度入学生

ART

COMMUNITY

COMMUNICATION

アートの魅力を伝える

美術館・博物館、ギャラリーで働く
美術教師になる

進学

大学院進学
(美学・美術史、アートプロデュース、文化政策等)

地域ではたらく

まちづくり NPO、芸術文化財団、
アートセンター、アーツカウンシルで働く

企業ではたらく

一般企業（福祉、人材、営業、サービス等）で働く
人と人、人とモノをつなぐ力で活躍する

4 年次
アートの中で社会を動かす人になる。
卒業研究・制作に取り組み、それぞれの
進路をみつけます。

3 年次
アートの力を視せる、まとめる。
研究テーマと仕事について考える。
見えにくいアートの成果・効果を調査や
評価、インターンを通して社会にみせる
術を学びます。進路も見据え、業界研究
をおこないながら、様々な現場に飛び込
み自分の活かし方も見つけます。

2 年次
アートが生まれる場所をつくりだす。
展覧会や企画を実践する。
アートの担い手として、様々な現場でア
ートの魅力や力を活用する実践を行います。
行政や企業、NPO と連携し、展覧会や
企画、ワークショップなどを通して社会
の課題の解決に取り組みます。

1 年次
すぐれた鑑賞者になることから始める。
基礎とコミュニケーションを学ぶ。
まず自分自身がアートの力を実感するた
めに、作品の魅力を見いだす鑑賞力や、
作品について考え、理解するための理論
を学びます。また、他者との協働の基礎
となるコミュニケーション力を鍛えます。

8	卒業研究・制作 卒業研究・制作				
	表現演習 IX 4年ゼミ				
7	論文研究 卒業研究・制作				
	表現演習 VIII 4年ゼミ				
6	美術芸術論 VII 美術館・博物館史 (ミューゼオロジー)	フィールドワーク演習 IV ソーシャルデザインの現場 2			
	芸術研究 X キュレーション論	芸術研究 VIII アート社会学			
	美術芸術論 VI 現代言語論・思想入門	美術芸術論 II 視覚文化論			
	キャリア研究 II 業界・企業研究とキャリアビジョン				
5	表現演習 VII 3年ゼミ				
	美術史 VII 現代美術 (戦後彫刻)	芸術研究 IX 現代哲学・思想	芸術研究 II アートと社会のリサーチ		
	芸術研究 VII 美術受容と美術教育			アートプロデュース特論 V ビジュアルデザイン論	
	キャリア研究 I セルフプロデュースとプレゼンテーション				
4	表現演習 VI 3年ゼミ				
	美術史 VIII 近現代美術史・展覧会史	美術芸術論 IV 芸術と文化		芸術研究 VI コミュニケーション論 2	
	芸術研究 IV 日本の芸術論・思想書	美術芸術論 V 哲学的思考			
	芸術特講 II 特別講義 (オムニバス)				
3	フィールドワーク演習 V インターンシップ	アートプロデュース表現演習 IV ARTZONE (展覧会・アートプロジェクト実践)		アートプロデュース表現演習 II リサーチ・プロジェクト (定量/定性調査・評価)	アートプロデュース表現演習 VI ACOP2 (鑑賞教育、コーチング)
	表現演習 V プレゼミ				
	美術芸術論 I 写真史・写真論	美術芸術論 VIII 美術館・博物館史 (生涯教育)		芸術研究 V コミュニケーション論 1	
	アートプロデュース特論 III 英語原文読解	アートプロデュース特論 II はじめての文化政策			
2	美術芸術論 III 現代美術 (戦後絵画)	アートプロデュース特論 IV 批評文を書く	フィールドワーク演習 III ソーシャルデザインの現場 1		
	フィールドワーク演習 I 京都フィールドワーク				
	芸術特講 I 特別講義 (オムニバス)				
	アートプロデュース表現演習 III ARTZONE (展覧会・アートプロジェクト実践)	アートプロデュース表現演習 I リサーチ・プロジェクト (定量/定性調査・評価)		アートプロデュース表現演習 V ACOP2 (鑑賞教育、コーチング)	
1	表現演習 IV プレゼミ				
	美術史 II 西洋美術史 (映像)	アートプロデュース特論 I アートと社会			
	美術史 IV 日本美術史 (仏教と美術)	コンピュータ演習 II DTP 基礎			
	表現演習 II ACOP 運営				
1	フィールドワーク演習 II 京都フィールドワーク			コンピュータ演習 I OFFICE 基礎	
	プロフェッショナル研究 プロに学ぶ	芸術研究 III ファシリテーション			
	美術史 III 日本美術史 (通史)				
	美術史 I 西洋美術史 (入門)				
芸術研究 I 社会実装入門					
表現演習 I ACOP 実践					
ラーニング・リテラシー I・II	ラーニング・リテラシー				

必修	履修必修	社会実装履修必修	選択
----	------	----------	----

※「実践英語 I・II・III・IV」「表現演習 III」は 2018 年度生のみ

【1-b】アートプロデュース学科 アートプロデュースコース カリキュラムマップ

人材育成目標(学科)										創造力				人間力									
価値観やものの見方が異なる他者にも関心を持ち、他者とのコミュニケーションを通して新たな価値や意味を創出することができる人材を育てる。そのために必要となる「みる・かんがえる・はなす・きく」能力を能動的かつ総合的に活用することができ、創造力、人間力、セルフ・エデュケーション力を兼ね備えた、アートと人／社会をつなぎ、支えることができる人材を育てる。										「これは何？」という問いを持ち、「みる・きく」能力を十分に発揮することで、体験や観察、調査などを通してこれらの問いを解消することができる。		「それはなぜ？」という問いを持ち、「かんがえる」能力を十分に発揮することで、整理や分析、検証や批判などを通じてこれらの問いに対する考察や解釈、理解を築くことができる。		「どのように？」という問いを持ち、「みる・かんがえる・きく」能力を相乗的に活用することで、編集や仮説生成、企画などを通して新たな価値への着想や、その実現への計画に結びつけることができる。		「みる・かんがえる・はなす・きく」能力を相乗的に活用することで、発見した新たな価値を他者に的確に伝達することができる。		「みる・かんがえる・はなす・きく」能力を総合的に活用し、目的意識を持って具体的なアクションを起こすことができる。		「みる・かんがえる・はなす・きく」能力を総合的に活用してセルフ・エデュケーションに取り組み、自らを高めるために持続的な取り組みをおこなうことができる。		「みる・かんがえる・はなす・きく」能力を総合的に活用し、他者とともに新しい価値の創造をおこなえる。	
										科目名	授業種別	履修学年・学期					単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力
美術史Ⅰ	講義	1	2	3	4	前期	2	西洋美術史(入門)	美術作品を「見る」とは、具体的にどのような営みか。美術史への入り口として、まずは作品を眺め考えるための、いくつかの視点を学び、さらに、古今様々な作品相互の有機的なつながりを確認する。	芸術作品を見るということは、ただ感性に頼ることではない。美術史学の基礎的な概念を知り、「目の付け所」をおさえたうえで、最終的には自分自身の言葉で作品について語るための能動的な思考力を身につける。	30		30		20		20				0		
美術史Ⅱ	講義	1	2	3	4	後期	2	西洋美術史(映像)	現代にいたるまでの西洋美術(映像)の流れを通史として学び、各時代の特色やそれらのつながりを確認する。	西洋美術史の基礎知識を身につけるとともに、現代の事象を歴史的な流れに接続して捉えることができるようになること。	40		40		20						0		
美術史Ⅲ	講義	1	2	3	4	前期	2	日本美術史(通史)	飛鳥・白鳳・奈良・平安・鎌倉・室町・江戸時代にいたる日本美術史の流れを学び、各時代の美術の特色と名品への理解を深める。	各自時代の代表作例を学ぶことにより、日本美術史の基礎知識を身につけ、その全体像を把握するとともに、それぞれの作例がもつ魅力をしっかり理解すること。	30	60	20	40	10	20	40	80	0	0	0		
美術史Ⅳ	講義	1	2	3	4	後期	2	日本美術史(仏教と美術)	日本美術史の各論を通して研究に必要な知識と方法論を学ぶ。各時代の代表作例に関する先行研究を検証しながら、自らも作例を徹底的に観察し、観察した結果を言葉に変換し、そして作例に関する文献資料を考察することにより、研究の視点を養う。	個別の作例について理解を深め、それを通して美術史研究の知識と方法論を学ぶこと。また、自らの力で作例のディスクリプションを完成させ、美術史研究が行えるようになること。	30	60	20	40	10	20	40	80	0	0	0		
美術史Ⅶ	講義		2	3	4	前期	2	現代美術(戦後彫刻)	とくに欧米における戦後美術の展開を、「彫刻」という軸から批評的に眺めていく。彫刻がつくられることの意味や、動向も視野におさめつつ、戦後、拡張の一端をたどる彫刻概念の変遷を追う。	彫刻にまつわる、あくまでも具体的な作品にそくしつつ、その制作背景や社会的背景を学び、解釈や批評のためのさまざまな切り口を身につけ、多様かつ難解な戦後美術への個々人のアプローチを基礎づける。	30	60	30	60	20	40	20	40	0	0	0		
美術史Ⅷ	講義		2	3	4	後期	2	近現代美術史・展覧会史	美術館を中心とする展開に加え、芸術祭やコミュニティなど美術館外に展開している日本の現在の美術界の動向と、それに至る日本の美術界の歴史を概観する。	将来の進路になるかもしれない日本の美術界の状況と歴史について認識を深めるとともに、そうした動向について自分なりの問題提起ができるようになる。	30	60	40	80	30	60	0	0	0	0			
美術芸術論Ⅰ	講義		2	3	4	前期	2	写真史・写真論	多様な様相を見せる映像メディアとしての写真の歴史を辿るとともに、それを考察するための理論的な枠組みについて講じる。	(1)写真に関する基礎的な知識を身につけること。 (2)写真について考えるための知識や思考法を深めること。	30	60	30	60	20	40	20	40	0	0	0		
美術芸術論Ⅱ	講義		2	3	4	後期	2	視覚文化論	具体的な事例を取り上げつつ、こうした視覚的なものの作用を分析することを通じて、「見ること」が孕むいくつかの基本的な問題について考察していく。	ヴィジュアル・カルチャーの基本的な考え方を理解し、視覚文化に対する批判的視野を養う。	30	60	30	60	20	40	20	40	0	0	0		
美術芸術論Ⅲ	講義		2	3	4	前期	2	現代美術(戦後絵画)	とくに欧米における戦後美術の展開を、「絵画」との軸から眺めていく。前半は絵画に重点を置き、いま、絵が描かれることの意味について考える。	絵画にまつわる、あくまでも具体的な作品にそくしつつ、その制作背景や社会的背景を学び、解釈のための切り口を身につけ、多様かつ難解な戦後美術への個々人のアプローチを基礎づける。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
美術芸術論Ⅳ	講義		2	3	4	後期	2	芸術と文化	従来の美術史の枠組みでは捉えきれない多様な「表現」に目を向け、人間が感覚や媒体を通じて自己や他者や世界をどのようにイメージし、そうした行為を通じてどのような文化を生み出されてきたかを学ぶ。	美術という特定のジャンルだけでなく、自分たちが日常接している様々な表象文化について意識的に目を向けるようになることと、批判的な視点からそれらを考えられるようになる。	30	60	30	60	40	80	0	0	0	0			
美術芸術論Ⅴ	講義		2	3	4	後期	2	哲学的思考	西洋哲学の歴史、特に構造主義からポスト構造主義、社会構築主義へと至る思想をふまえ、社会分析、芸術批評の具体的な方法論を学ぶ。	哲学史の人物の思想の概念を他者に説明できるようになる。「ポストモダン」や「無意識」といった芸術批評によくあらわれる概念を自分なりに説明できるようになる。	20	40	50	100	30	60	0	0	0	0			
美術芸術論Ⅵ	講義		2	3	4	後期	2	現代言語論・思想入門	アート・文学を語る「後ろ盾」になるような哲学・思想を学ぶ。哲学者・思想家たちによる実際の分析に触れることによって、作品について実際に「語る」ことができるようになることを目指す。	現代思想への理論立てをバックグラウンドとして、文学・アートについて語るができるようになる。	50	100	30	60	0	20	40	0	0	0			
美術芸術論Ⅶ	講義		2	3	4	後期	2	美術館・博物館史(ミュゼオロジー)	美術館や博物館の成り立ちや変遷を学ぶとともに、その機能や展示の歴史を紐解き、現代と接続する。	将来の進路になるかもしれない美術館・博物館についての理解を深め、今後の美術館・博物館の在り方について考えられるようになる。	50	100	30	60	20	40	0	0	0	0			
美術芸術論Ⅷ	講義		2	3	4	前期	2	美術館・博物館論(生涯学習)	狭義の芸術教育としてではなく、生涯教育の観点から芸術による学びの意義やその手法について学ぶ。	芸術による教育の意義と手法を知り、将来、それらを社会で活用できる基礎を身につける。	30	60	30	60	40	80	0	0	0	0			
芸術特講Ⅰ	講義	1	2	3	4	前期	1	特別講義(オムニバス)	第一線で活躍するアーティスト、キュレーター、研究者などアート関係者を毎回お招きし、その活動や考え方をすることで視野を広げる。	「アート」に様々な角度から関わる活動を知り、自身の「アート」についての考え方を広げ、深めることができるようになる。	30	30	30	30	20	20	20	20	0	0	0		
芸術特講Ⅱ	講義	1	2	3	4	後期	1	特別講義(オムニバス)	第一線で活躍する各分野のゲストを毎回お招きし、その活動や考え方をすることで視野を広げる。	自分が将来どのような活動や生き方を目指していくのか考え、それらを今後の活動に結びつけることができるようになる。	30	30	30	30	20	20	20	20	0	0	0		
芸術研究Ⅰ	講義	1	2	3	4	前期	2	社会実装入門	学外のような領域における問題や課題をアートプロデュースの考え方をういて解決する方法を模索する。	地域や企業などアート以外の領域の問題に対して、アートプロデュースの手法や考え方をういてその解決法を考えることができるようになる。		0	40	80	30	60	30	60	0	0	0		
芸術研究Ⅱ	講義		2	3	4	前期	2	アートと社会のリサーチ	なぜアートプロジェクトのリサーチが必要なのか、意義を確認した上で、日本の芸術鑑賞環境の実態を概観し、実際のリサーチ方法について学ぶ。	自分達でアートプロジェクトを実施する際に、その成果や影響をリサーチして分析し、それらを第三者に説明出来るようになる。	30	60	30	60	20	40	20	40	0	0	0		
芸術研究Ⅲ	講義	1	2	3	4	夏期集中	2	ファシリテーション	異なる考えや意見を取りまとめていく「話し合いの技術」と目指す方向性や経験を「共有していく技術」を学ぶ	「やれない理由」を探すのではなく「どうしたらできるか」と「やれる方法」を考えられるようになることを目標にします。		0	10	20	40	80	30	60	0	0	20	40	
芸術研究Ⅳ	講義	1	2	3	4	後期	2	日本の芸術論・思想書	多元的な日本文化のありさまを、取り上げた書物を読みながら、考えていきます。日本文化についての基本的な教養を身につける。	日本文化を多角的に理解する力を身につける。		0	10	20	40	80	30	60	0	0	20	40	

科目名	授業種別	履修学年・学期				単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力		思考力		発想・構想力		表現力		行動力		継続力		コミュニケーション力			
						必修	選択																			
芸術研究Ⅴ	講義		2	3	4	前期	2	コミュニケーション論1	コミュニケーションとは何かを考え、発信者に偏重しがちなコミュニケーションの捉え方を、発信者と受信者が相互に関与する現象として捉えなおす。	コミュニケーションについて考えるのに必要な理論について理解し、コミュニケーションという側面からものごとを捉え、当事者としてその実践を続ける姿勢を身につける。	20	40	40	80	20	40		0		0	20	40		0		
芸術研究Ⅵ	講義		2	3	4	後期	2	コミュニケーション論2	コミュニケーションについての学術書を読み、その内容の理解を深めるための講義を学生が実施する反転授業を行う。	研究に必要な専門書の読解を試み、その内容を整理し他者に伝えられるようになる。	20	40	40	80	20	40		0		0	20	40		0		
芸術研究Ⅶ	講義		2	3	4	前期	2	アート社会学(美術受容と美術教育)	日本で美術は、どのように受容され、啓蒙、教育されてきたか。その諸相を学校美術教育の歴史や隣接する文化・芸術、美術大学の変容などを通じて多角的に検証し、制作や鑑賞以前の美術受容の下地について考えると共に、今後の美術教育の可能性を探る。	日本における美術受容の特殊性を理解し、美術 - アートを取り巻く状況認識を深め、美術教育について柔軟な見方、考え方を養う。	30	60	30	60	20	40	20	40		0		0	20	40		0
芸術研究Ⅷ	講義		2	3	4	後期	2	アート社会学(映画を読む)	多様な「読め」に向かつて開かれている視覚表現の局面には、それを紹介し批評する言葉群がある。本授業では、アートの隣接分野である映画という身近な表現を題材にして、そこに現れる歴史観やジェンダー観、アート・デザイン意識、物語の構造を読み解き記述する。	映画をさまざまな角度から記述する作業を通じて、芸術における「語り」の多様性、重層性を理解すると共に、作品の見方、書き方の幅を広げる。	30	60	30	60	20	40	20	40		0		0	20	40		0
芸術研究Ⅸ	講義		2	3	4	前期	2	現代哲学・思想	現代を代表する思想・哲学を学びながら、21世紀において人間はいかなる姿へと変貌するのか(あるいは変貌しないのか)を考察する。	現代思想を代表する学説や概念を説明できるようになる。21世紀の諸課題について、哲学的な観点から自分なりの切り口で問題提起できるようにする。	20	40	50	100	30	60		0		0	20	40		0		
芸術研究Ⅹ	講義		2	3	4	後期	2	キュレーション論(美術館)	展覧会作りの現場であり、多くの人が訪問する鑑賞の場である美術館で何が行われているのか。展覧会はどうやってつくられているのか、具体的な事例に即して追体験する。	展覧会や美術館の活動を外側から眺めるのではなく、内側から構築するつもりで、当事者意識をもって、いわば批判的な視点で何事も見られるようになってほしい。	30	60	30	60	20	40	20	40		0		0	20	40		0
アートプロデュース特論Ⅰ	講義	1	2	3	4	後期	2	アートと社会	アートと社会をむすぶ「仕事」に着目し、その調査・研究をおこなう。さらにそれらを仕事としている「ひと」の講義やインタビューを通じて、自分の将来の可能性を広げる。	アートと社会のつながりを確認し、自分の将来像を描く。		0		0	10	20		0	40	80	20	40	30	60		
アートプロデュース特論Ⅱ	講義	1	2	3	4	前期	2	はじめての文化政策	文化・芸術の存在理由、芸術を学ぶ学生自身の存在意義を、社会や政治、経済から考えていく。	文化・芸術と政治、経済、政策をむすびつけて考える思考回路をもつ。		0	20	40		0	20	40	40	80		0	20	40		
アートプロデュース特論Ⅲ	講義		2	3	4	前期	1	英語原文読解	文化や芸術に関する英語の文章を読み解く。基礎的な英文法の知識を有する3・4回生推奨。	専門的な知識に関わる英語力を身につけ、世界へと目を向ける姿勢を自ら育む。		0		0	20	20		0	40	40	40	40		0		
アートプロデュース特論Ⅳ	講義		2	3	4	前期	1	批評文を書く	批評や評論がどのようなものであるかを知り、その営みの必要性や意義を理解したうえで、実際に批評・評論を書く。	ものごとに対する批評眼を養い、そこから得た考えを評論として落とし込む論理的な文章力を身につける。	20	20	30	30	20	20	30	30		0		0		0		
アートプロデュース特論Ⅴ	講義	1	2	3	4	前期	2	ビジュアルデザイン論	出版物や広報物、プレゼン資料などビジュアルを通じて他者に訴求する際の効果的なデザインの在り方について学ぶ。	自己の視点だけでなく、他者(受容者)の視点に立って、より効果的に表現やデザインを行えるようになる。		0		0	30	60	30	60	20	40	20	40		0		
プロフェッショナル研究	演習	1	2	3	4	前期	2	プロに学ぶ(展覧会ができるまで)	展覧会を企画、運営し、集客するために必要な仕事を、各分野でご活躍の専門家の方々から講義やワークショップを通じて学ぶ。	社会人としての心得や基礎力を学ぶだけでなく、文化に関わる仕事がいかにたくさんあるか知る。将来の仕事についても考えるきっかけとなる。	20	40	30	60	30	60	20	40		0		0	20	40		0
キャリア研究Ⅰ	講義			3		前期	1	セルフプロデュースとプレゼンテーション	ポートフォリオ作成、自己紹介文の書き方を学び、これまでの学修や活動を他者に伝えられるようになる。	履修必修授業。4年生の進路活動に向けて、これまでの学修や活動をふりかえり、自身の強みや特性を理解できるようになる。		0		0	30	30	20	20	30	30	20	20		0		
キャリア研究Ⅱ	講義			3		後期	1	業界・企業研究とキャリアビジョン	就職活動の流れや考え方についてのレクチャーや、進路活動のプランを立て活動を行えるようになるためのWSによりリソースを増やす。	履修必修授業。4年生の進路活動に向けて自分の進路の方向付けを行い、これまでの学修や活動を効果的に他者に伝えられるようになる。		0		0	30	30	20	20	30	30	20	20		0		
アートプロデュース表現演習Ⅰ	演習	1	2	3	4	前期	2	リサーチ・プロジェクト(ファンリレーション、調査・評価)	美術館や文化施設、社会の現象について現状をより理解し、その存在意義と問題点を考えるための調査の準備と実施を行う	調査力と分析力を養い、論理の展開とそれを文章化することを学ぶ。		0		0	20	40	40	80	40	80		0	20	40		0
アートプロデュース表現演習Ⅱ	演習	1	2	3	4	後期	2	リサーチ・プロジェクト(ファンリレーション、調査・評価)	調査によって得たデータを理論的に分析し、各自の調査をまとめて報告書を作成する。	学生にとって卒業後の仕事の場ともなる美術館や文化施設などの評価に対する新しい視点を身につける。		0		0	20	40	40	80	40	80		0	20	40		0
アートプロデュース表現演習Ⅲ	演習		2	3	4	前期	2	ARTZONE(展覧会・アートプロジェクト実践)	場づくり、展覧会・イベントの企画、印刷物やHPの執筆・デザイン・編集、広報など「場」を動かしていくための基礎を学ぶ。	展覧会などの芸術・文化的イベントのキュレーション、ギャラリー運営のいろはを学びながら、自己の潜在能力を発見し、それを企画の実行に活用できるようにする。		0		0	10	20		0	30	60	20	40	40	80		
アートプロデュース表現演習Ⅳ	演習		2	3	4	後期	2	ARTZONE(展覧会・アートプロジェクト実践)	ARTZONEの実質的な運営者として、「場」の運営にまつわるすべてのことを自律的に実践する。	展覧会・アートプロジェクトのマネジメント全般について把握するとともに、社会の現場に対応できる力を獲得する。		0		0	10	20		0	30	60	20	40	40	80		
アートプロデュース表現演習Ⅴ	演習		2	3	4	前期	1	ACOP2(鑑賞教育、対人支援)	「ACOP」の経験を生かし、アートを介したコミュニケーションの応用可能性について学ぶとともに、それらをオープンキャンパスの場で高校生に向けて実践する。	アートを介したコミュニケーションの応用可能性を理論面から学ぶことを通じ、アート・コミュニケーションについての理解を深める。		0		0	20	20		0	30	30	20	20	30	30		
アートプロデュース表現演習Ⅵ	演習		2	3	4	後期	1	ACOP2(鑑賞教育、対人支援)	ナビゲーター育成のためのトレーニングスキルを身につけ、ACOP履修生に向けてメンターとして実践を行う。	将来、アート・コミュニケーションを応用し社会に生かすための基礎理論と実践力を身につける。		0		0	20	20		0	30	30	20	20	30	30		
フィールドワーク演習Ⅰ	演習	1	2	3	4	前期	1	京都フィールドワーク	京都の庭や公園を見て、考えて、発表し、話し合う。芸術的遺産を実際に調査すること、ひいてはその背景となる自然や文化について考える。	フィールドから独自の視点や着想を引き出し、それを人に伝えるようにプレゼンし、ディスカッションすること慣れる。	40	40	10	10	30	30		0	20	20		0	20	40		0
フィールドワーク演習Ⅱ	演習	1	2	3	4	前期	1	京都フィールドワーク	美術作品や伝統産業、制作の現場を実際に調査することによって、オリジナルな考察を深める。	書物で知識を得るだけでなく、自ら現場に赴いて考え、それを文章として表現できるようになる。	50	50	30	30		0	20	20		0	20	20		0		
フィールドワーク演習Ⅲ	演習		2	3	4	前期	2	ソーシャルデザインの現場1	まちづくりやソーシャルデザインの実例を学びながら、それらを行っていく上での様々な課題や問題を考える。	まちづくりやソーシャルデザインのポジティブな面だけでなく、それらが孕む問題にも目を向けながら考えていくことができるようになる。		0		0	20	40	40	80	40	80		0	20	40		0
フィールドワーク演習Ⅳ	演習		2	3	4	後期	2	ソーシャルデザインの現場2	まちづくりやソーシャルデザインの現場で必要となる手法やスキルを、WS形式で実践的に学ぶ	異なる考えや意見を取りまとめていく「話し合いの技術」と目指す方向性や経験を「共有していく技術」を、実際の現場の問題解決に活かせるようになる。		0		0	20	40	40	80	40	80		0	20	40		0
フィールドワーク演習Ⅴ	演習		2	3	4	後期集中	2	インターンシップ	企業、団体、ギャラリーなどの職場に一定期間受け入れてもらい、研修生として職業体験を行う。	インターンシップを通して自分の卒業後の進路を具体的に考え、就職活動・進路決定に生かすことを最大の目標とする。		0		0	10	20	30	60	30	60	30	60	30	60		
ラーニング・リテラシーⅠ	講義	1	2	3	4	前期	1	ラーニング・リテラシー	大学って何?授業に参加することも意味、自学自習のために必要な「読み」「書き」など、修学要素について学ぶ。	学ぶ姿勢や学び方を学ぶことを目的に、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を一年間かけて身につける。	40	40	30	30		0		0	30	30		0	20	40		0
ラーニング・リテラシーⅡ	講義	1	2	3	4	前期	1	ラーニング・リテラシー	自分の現在地を俯瞰する。さらには、俯瞰力=視界を広げていく力を身につける。	歴史、地理、社会の基礎知識や、「芸大で学ぶ」をテーマに、アートと学びの関係、アートを学ぶための基礎知識の習得を目指す。	40	40	30	30		0		0	30	30		0	20	40		0
表現演習Ⅰ	演習	1	2	3	4	前期	2	ACOP実践	作品と観客をつなぐ「ナビゲーター」としてのスキルを習得を準備する。大学外部から募ったボランティア鑑賞者を対象に作品鑑賞会を開催する。	作品と鑑賞者とのコミュニケーション能力を身に付ける。作品との、そして人とのコミュニケーション・スキルを更に高め、ひとつのプロジェクトを遂行できるようになる。		0	30	60	20	40	20	40		0	20	40		0	30	60
表現演習Ⅱ	演習	1	2	3	4	後期	2	ACOP運営	鑑賞会開催にあたり告知、集客、運営などを行う。実践をとおして、コミュニケーション、「場づくり」、そして「協働」の重要性を学ぶ。	鑑賞者との作品の関係性を考えられ、社会とつないでいく能力を得る。年代や職業など背景の異なる人々に、アートとコミュニケーションを通して関わる力を身につける。		0		0		0	30	60	30	60	40	80		0		

科目名	授業種別	履修学年・学期					単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力		思考力		発想・構想力		表現力		行動力		継続力		コミュニケーション力	
							必修	選択																	
表現演習Ⅲ	演習	1	2	3	4	夏期集中		1	ACOP理論	*「アート」とはなにかについて理解を深める。*「作品」と「アート」の違いを理解し、鑑賞者の存在理由と重要性を学ぶ。*鑑賞者への理解をより深めて上で、自らが優れた鑑賞者となる。	(1)アートとはなにかを理解し、鑑賞者と作品の関係性を学ぶ。 (2)鑑賞者として作品を読み解く力をつける。	40	40	40	40	0	0	0	0	20	20	0	0		
表現演習Ⅳ	演習		2			前期	1		2年プレゼミ	3、4回生でのゼミ活動、卒業論文制作を展望しながら、後期の進級レポートに向けて調査の方法を学ぶ。	研究のテーマに応じた調査の仕方を身につけ、その調査内容を論理的に文章化する力を身につける。	30	30	30	30	20	20	20	20	0	0	0	0		
表現演習Ⅴ	演習		2			後期	1		2年プレゼミ	3、4回生でのゼミ活動、卒業論文制作を展望しながら、進級レポートの制作指導を通じ、今後の方向性を確立する。	自分なりの研究の方向を見つけ、それにむけての予備調査を行い、文章と口頭でプレゼンができるようになること。	30	30	30	30	20	20	20	20	0	0	0	0		
表現演習Ⅵ	演習			3		前期	2		3年ゼミ	進級論文を書き進めるために必要な執筆技術はもとより、文献講読、情報収集、フィールド調査、口頭発表の手法について学ぶ。	自分の関心領域に応じた研究手法を身につけ、それらを実践し、研究によって得た成果を論理的に相手に伝える力を身につける。	30	60	20	40	10	20	0	10	20	20	40	10	20	
表現演習Ⅶ	演習			3		後期	2		3年ゼミ	卒業論文につながるような進級論文を制作し、その研究内容を口頭でプレゼンする。	調査・研究の成果を論文の形式に則って執筆する技術と、そうした研究を端的に他者に伝えるプレゼン能力を身につける。	30	60	20	40	10	20	0	10	20	20	40	10	20	
表現演習Ⅷ	演習				4	前期	2		4年ゼミ	卒業論文や卒業制作となる展覧会企画書・総括を書き進めるために必要な執筆技術はもとより、文献講読、情報収集、フィールド調査、口頭発表の手法について学ぶ。またそうした研究を自身の進路とつなげて考える。	下級生の範となるような論文・企画を執筆・制作するための力を身につける。	10	20	20	40	30	60	0	10	20	20	40	10	20	
表現演習Ⅸ	演習				4	後期	2		4年ゼミ	卒業論文や卒業制作となる展覧会企画書・総括を実際に書き進め、そうした研究内容について互いに批評し合いながら検討を重ねる。	実際の論文執筆や制作に当たり、その内容を批判的・論理的に検討する力を身につける。	10	20	20	40	30	60	0	10	20	20	40	10	20	
論文研究	講義				4	前期	4		卒業研究・制作	卒業論文・制作に必要な先行研究のレビューと批判の方法を学ぶ。週1回の定期と集中指導、中間発表を実施。	研究分野における自身のテーマの位置づけを認識し、自身の研究の独自性を説明できるようになる。	10	40	20	80	30	120	40	160	0	0	0	0		
卒業研究・制作	演習				4	後期	4		卒業研究・制作	本学科における最後の「制作物」である卒業論文作成のために、担当教員ごとにわかれて指導を行なう。後期は卒業論文提出後に試問(1月)と発表会(2月)を実施する。	自身の大学での学びと研究の成果を論文もしくは展覧会として形にし、他者に伝える能力を身につける。	10	40	20	80	30	120	40	160	0	0	0	0		
実践英語Ⅰ	講義	1	2	3	4	前期		2	基礎英語1	英語の基礎を固めることと、英語を使うことに対する抵抗をなくすことを目指す。	基礎的な英語能力と、英語学習の習慣を身につける。	30	60		0	0	20	40	0	20	40	30	60		
実践英語Ⅱ	講義	1	2	3	4	後期		2	基礎英語2	基礎的な英語力をもとに、自己表現などを含めた、さらに実践的な能力を開発することを目指す。	基礎的な英語力を定着させ、リスニングやスピーキングを含めたより実践的な技能を身につける。	30	60		0	0	20	40	0	20	40	30	60		
実践英語Ⅲ	講義		2	3	4	前期		2	実践英語1	総合的に英語力を向上させ、リスニングやスピーキングを含めたよりコミュニケーション中心の実践的な技能を身につける。	総合的な英語能力の向上および資格試験への対応ができるようになる。	30	60		0	0	20	40	0	20	40	30	60		
実践英語Ⅳ	講義		2	3	4	後期		2	実践英語2	「読む・聴く・話す・書く」という4つの技能をバランスよく高め、実践的な英語能力の開発を目指す。	総合的な英語能力の向上および資格試験への対応ができるようになる。	30	60		0	0	20	40	0	20	40	30	60		
コンピュータ演習Ⅰ	演習	1	2	3	4	前期		2	Office基礎	Word、Excel、PowerPointを目的に応じ使い分け、効率的な書類作成のスキルを習得する。	Word・Excel・PowerPointの基礎を理解し、効率的に活用できる様になる。		0		0	20	40	20	40	20	40	40	80	0	
コンピュータ演習Ⅱ	演習	1	2	3	4	後期		2	DTP基礎	Photoshop、Illustratorの目的に応じた使い分けと、その使い方の基礎を学ぶ。	Photoshop、Illustratorの基本操作を理解し、これらをデザイン作成に活用できる様になる。	20	40	20	40	30	60	30	60	0	0	0	0		

合計	18	99
----	----	----

ポイント計	2050	2190	2130	1910	1080	1020	920
比率	18.1%	19.4%	18.8%	16.9%	9.6%	9.0%	8.1%